

新型コロナウイルスによる生乳需給への影響を鑑み、直近の飲用等向けの販売状況の推移を中心に毎週発信してまいります。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《「巣籠需要」が増加傾向にあるものの、年末年始期の需給緩和には万全の体制準備が必要》

- ・11/30週の家庭内消費については、牛乳が引き続き好調に推移しているほか、成分調整牛乳、大容量タイプのヨーグルトも前年同期を上回った。また、家庭用バターについても引き続き前年を大きく上回って推移している。
- ・このように、家庭内消費が好調に推移している背景には、全国的な新型コロナウイルスの感染再拡大によって、「巣籠需要」が再び増加している可能性が示唆される。一方で、一部地域で飲食店へ時短要請や「Go Toキャンペーン」の見直し等の対応が図られていることから、業務用需要への影響を含め、引き続き動向の変化を注視してゆく必要がある。
- ・なお、業界としては、新型コロナウイルスの感染再拡大により、食品小売店舗の休業や学校給食の開始時期など、不透明な状況があることも踏まえ、短期的な需給緩和が想定される『年末年始』に向けて、万全な処理体制の準備が必要である。

【牛乳類の販売速報(推定値)：インテージSRI】

(1)直近(本年10月～)の動向(表①参照)

・直近(11/30週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳：同104.9%、成分調整牛乳：同102.4%、加工乳：同96.3%、乳飲料：同96.3%。

牛乳類トータルでは同103.1%と前週(11/23週)と同程度の水準。

・販売単価は、牛乳：189.4円、成分調整牛乳：172.7円、加工乳：185.2円、乳飲料：150.3円。

(2)成分調整牛乳が再び前年を上回った。

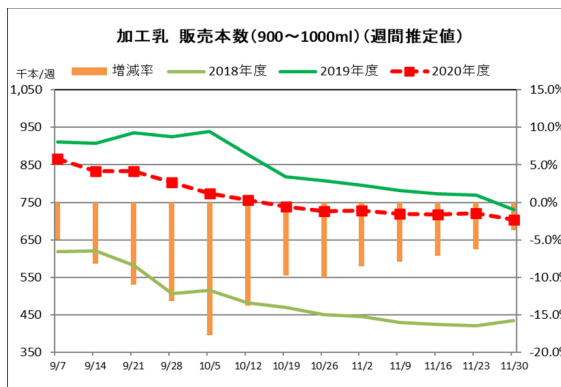
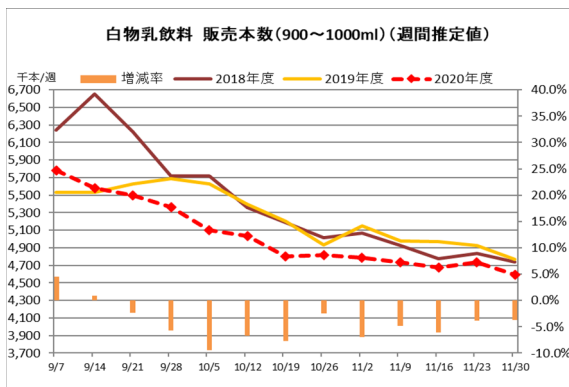
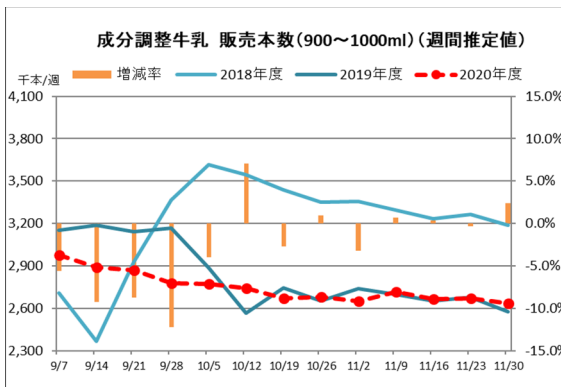
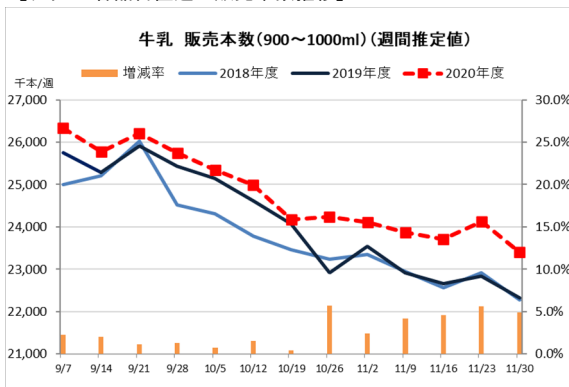
※出典 ㈱インテージSRI週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(単位：千個、円)

品目	区分	10.5-	10.12-	10.19-	10.26-	11.2-	11.9-	11.16-	11.23-	11.30-
トータル	販売個数	33,983	33,528	32,387	32,456	32,283	32,048	31,757	32,251	31,343
	販売個数前年比	98.2	100.2	98.6	103.6	100.2	102.1	102.2	103.3	103.1
	販売単価	182.9	182.8	182.8	182.4	182.5	182.2	182.7	182.4	182.2
牛乳	販売個数	25,337	24,992	24,171	24,237	24,113	23,873	23,703	24,121	23,411
	販売個数前年比	100.8	101.5	100.4	105.7	102.4	104.2	104.6	105.6	104.9
	販売単価	190.3	190.2	190.0	189.6	189.7	189.5	190.0	189.4	189.4
成分調整牛乳	販売個数	2,774	2,744	2,671	2,679	2,652	2,718	2,663	2,670	2,636
	販売個数前年比	96.1	107.0	97.3	100.9	96.8	100.7	100.4	99.7	102.4
	販売単価	173.8	173.8	173.7	173.6	173.7	172.6	173.1	173.5	172.7
加工乳	販売個数	773	757	739	726	728	719	718	721	703
	販売個数前年比	82.2	86.3	90.2	90.0	91.4	92.0	92.8	93.7	96.3
	販売単価	186.1	186.7	185.7	186.1	186.3	186.0	185.5	186.0	185.2
乳飲料	販売個数	5,099	5,034	4,805	4,814	4,790	4,739	4,673	4,739	4,593
	販売個数前年比	90.5	93.3	92.3	97.6	93.0	95.2	94.0	96.2	96.3
	販売単価	150.5	150.6	150.8	150.6	150.8	150.1	150.7	150.7	150.3

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近(本年10月~)の動向(表②参照)

直近(11/30週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。

(2)ドリンクタイプは、前週(11/23週)と同程度の販売個数で推移している。個食タイプは前年と同程度の水準となっているが、販売個数は前週から減少した。大容量タイプは、再び前年を上回ったが、販売個数が前週から減少した。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	10.5-	10.12-	10.19-	10.26-	11.2-	11.9-	11.16-	11.23-	11.30-
ドリンクタイプ	↗	↗	↗	↗	↓	↗	↗	↓	↗
個食タイプ	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
大容量タイプ	→	→	↗	→	↗	→	→	↗	→



:前年比90%未満



:前年比105%以上110%未満



:前年比90%以上100%未満



:前年比110%以上120%未満



:前年比100%以上105%未満



:前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

※本データの収集・分析は、2020年度生乳需要基盤確保事業を活用し実施しております。